

目次

- 七 赤道以北旧独逸領諸島委任統治ニ関スル件
  - 八 聯合國軍事會議及対独平和条約ノ軍事条項実施ニ関スル件
  - 九 國際聯盟ニ於ケル常設軍事諮問委員會及軍備制限問題ニ関スル件
  - 一〇 対独平和条約ノ賠償条項実施ニ関スル件
  - 一一 ブラッセル國際財政會議ニ関スル件
  - 一二 前独国皇帝取扱及戦争責任者問題ニ関スル件
  - 一三 独国ノ対独平和条約違反ニ関スル件
  - 一四 日英同盟協約更新ニ関スル交渉一件
  - 一五 シベリア及東支両鉄道管理ニ関スル交渉一件
- 附録 日本外交文書大正九年第三冊上下巻日附索引

(以上 下巻)

事項一 同盟及聯合國ノ独逸勃各国トノ平和条約批准關係一件

附 米國ノ対独平和条約批准拒否問題

一 一月二日 内田外務大臣ヨリ  
在仏国松井大使宛(電報)

仏伊ノ対独平和条約批准書寄託及批准書寄託  
ノ第一回調書作成ノ時期等ニ付問合ノ件

附記 大正八年十二月二十六日松井大使宛内田外務大臣  
宛電報講第二五八九号

第一号 至急

貴電講第二五八九号及第二六〇七号ニ関シ

(一) 仏伊ハ既ニ批准書寄託済ナリヤ

(二) 批准書寄託ノ第一回調書ハ一月六日ヲ以テ作製スルノ手  
筈トナリ居ルヤ

(三) 第一回聯盟理事會招集ノ日取並米國ノ批准未了ナルモ大  
統領ニ於テ愈同會ヲ招集スルコトトナリタルヤ

尚同會ニ於ケル米國代表者出席ノ有無

右当方準備ノ都合モアルニ付事情詳細至急電報アリタシ

一 同盟及聯合國ノ独逸勃各国トノ平和条約批准關係一件 一

註 大正八年十二月二十六日松井大使宛内田外務大臣宛電報講第

二五八九号ハ附記トシテ左ニ掲載ス

(附記)

大正八年十二月二十六日在仏国松井大使宛内田外務大臣宛電報  
講第二五八九号

講第二五八九号

往電講第二三四七号ニ関シ英國政府ハ拾二月二拾六日ヲ以  
テ対独平和条約及対波蘭条約批准書ヲ寄託スルニ決シタル  
ヲ以テ我方ニ於テモ此ノ際帝國批准済ミノ旨正式ニ通知ス  
ルヲ適當ト認メ拾二月二拾六日附ヲ以テ仏国外務大臣臨時  
兼摂「クレマンソー」ニ対シ対独平和条約及附屬議定書並  
対波蘭条約ハ拾一月七日御批准アリタルヲ以テ条約末文ノ  
規定ニ依リ之ヲ閣下ニ通知スル旨並批准書ハ到着次第直チ  
ニ交付スベキ旨ノ公文ヲ發シタリ

(註) 右公文原文別電ノ通り

一

一 同盟及聯合國ノ独逸勃各国トノ平和条約批准關係一件 二  
在欧米各大使ニ転電セリ

註 別電省略

二 一月四日 在仏国松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

英仏ノ対独平和条約批准書寄託済及批准書第  
一回調書作成ノ日取未定等回報ノ件

第七号 (一月五日接受)

貴電第一号ニ関シ

(一)英仏共ニ批准書寄託済

(二)目下聯合國実施委員ト独逸委員トノ間ニ軍隊輸送「ダン  
ンチッヒ」「メーメル」及人民投票地域ノ事政権移転等  
実施準備ニ関スル諸問題ニ就キ交渉中ナルガ一月六日迄  
ハ協定間ニ合ハザルベク從テ批准書寄託調書作製モ数日遅  
ルルコトナルベク其ノ日取確定次第急報スベシ  
尚「レルスナー」ハ第一回批准書寄託調書ニ又「シムソン」  
及「レルスナー」ハ十一月一日「プロトコール」ニ調印  
スベキ全権ヲ受ケタル旨「レ」ヨリ書記局ニ通知シタリ  
(三)一月三日五国会議ニ於テ米國大使ハ本國政府ノ訓示ニ依  
リ米國大統領ハ対独条約ノ第一回批准書寄託調書作成サレ

ザルベキヲ断ハリタル次第ニシテ右ハ米國政府ノ上院ノ  
關係ニ基クモノト思考サルル次第ナルヲ以テ果シテ米國  
ガ非公式ニモ代表者ヲ出席セシムルヤ疑ハシ尚米國大使  
ニモ聞キ合セノ上回報スベシ

註 日本外交文書大正八年第三冊上卷六四文書別電

三 二月十二日 内田外務大臣ヨリ  
在仏国松井大使宛(電報)

在本邦伊國代理大使ヨリ本邦ノ対獨平和条約  
批准見込ニ付問合アリタル旨通報並責任國ノ

情況先方当局ヨリ聴取方指示ノ件

第二二二号

二月四日在本邦伊太利代理大使ヨリ伊太利國ハ対獨平和条  
約ヲ重視シ居リ既ニ其ノ批准ヲ了シタルガ他諸國ニ於テモ  
速ニ該条約ヲ批准セムコトヲ希望シ本邦ニ於ケル批准見込  
日取承知致シ度旨本國政府ノ訓令ニ依リ申出デタリ  
右ハ本邦ニ於テモ着々準備進行中ナル処責任國政府ニ対シ  
テモ伊太利政府ヨリ右ノ趣申出アリタル由ニ付右ニ対スル  
責任國政府ノ見込適當ノ時期ニ於テ当局者ヨリ御聴取ノ上  
返電アリ度シ

一 同盟及聯合國ノ独逸勃各国トノ平和条約批准關係一件 三

二

タル時ハ米國ノ批准有無ニ拘ハラズ第一回聯盟理事会ヲ  
招集スベキヲ快諾シタルガ其ノ前ニ聯盟理事会招集ノ予  
告ヲ發スルコトハ内政上困難トスル処ナリ尤モ國務省ハ  
在米關係國使臣ニ口頭ニテ右ノ予告ヲ与フルコトハ承諾  
スベキモ之ヲ以テ不完全ト思考セラルル場合ニハ講和会  
議議長「クレマンソー」氏ヨリ予告ヲ發セラレタリト述  
ベ「ク」氏ヨリ右ノ予告ヲ發スルコトナリタリ尚同大  
使ガ朗読シタル米國大統領ノ正式招集狀案ハ入手次第電  
報スベシ(往電講第二三一八号参照)

將又米國ハ自國ノ批准アル迄ハ正式ニ代表者ヲ出席セシ  
メザルベキハ略予測スルニ難カラズ仏國側ガ第一回理事  
会ノ日程ヲ「サール」境界問題ニ限り「サール」政治委  
員ノ任命ヲ除キタルハ米國代表者ノ不参加ヲ預期スルモ  
ノナルガ既報ノ如ク「ボーク」ハ本使ニ対シ巴里ニ於テ  
理事会開催ノ場合ニハ非公式ニ出席スルヤモ知レズト語  
リタルモ「ポ」ハ歸國後米國大使「ウォレス」ノ五国会  
議ニ於ケル権限ハ極メテ極限サレ同氏ハ一月三日又復五  
国会議ニ於テ四國同盟及聯合國ノ名ヲ以テスル決議ト雖  
モ明カニ米國ガ同意セル旨ヲ記載セザレバ米國ヲ拘束セ

本電本大臣ノ訓令トシテ在英大使ヘ転電アリ度シ

四 三月六日 在仏国松井大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

獨國代表者ヨリ日本ガ速ニ対獨平和条約ヲ批  
准スルコトヲ希望スル旨申出ノ件

第三九七号 (三月八日接受)

三月五日獨國代表者「アイヒエフ」本使ヲ來訪シ「サン、  
ジェルマン」条約ヲ批准シタルハ今日迄ノ処伊太利ノミニ  
シテ聯合國側ニ依ル同条約批准遅延スル為獨國內ニテハ或  
ハ「サン、ジェルマン」条約改訂セラレ獨國ガ同条約ニ依  
リ折角洪牙利ヨリ得タル地方ヲ又々返還セシメラルルヲ恐  
レ兎角人心落著カザル処同國政府ニ於テハ必ズシモ「サ  
ン、ジェルマン」条約ニ満足シ居ルモノニ非ザルモ平和ヲ  
欲スルノ急切ナルニ付聯合國政府ニ於テモ可成速ニ同条約  
ヲ批准センコトヲ希望スル次第ナリ仏國ニテハ目下下院外  
交委員會ニテ同条約ノ報告作製中ノ由ナルガ自分ハ已ニ英  
國大使ヲモ往訪シ英國政府ノ批准督促方ニ付承諾ヲ得タル  
ニ付テハ日本政府ハ特ニ「サン、ジェルマン」条約ニ利害  
關係尠キコトニモアリ旁々一日モ早ク之ヲ批准センコトヲ

四 三

一 同盟及聯合國ノ独逸勅各國トノ平和条約批准關係一件 五

希望スルコトヲ申出デタルニ付本使ハ同条約ハ帝國政府ニ於テモ目下折角研究中ノコトト存ズルモ今後枢密院ノ審査モ多少ノ時日ヲ要スベキ次第ヲ説明シ兎モ角墺國政府ノ希望ハ之ヲ本國政府ニ轉達スベシト答ヘ置キタリ

五 七月十一日 在仏國松井大使ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

中国政府對墺條約批准ノ件

第一一三七号 (七月十三日接受)

支那共和國ハ六月十八日對墺條約ヲ批准シタル旨書記局ヨリ通知シ来レリ

六 七月十七日 在仏國松井大使ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

對墺平和條約第一回批准寄託調書調印式ニ付報告ノ件

第一一五三号 (七月十九日接受)

七月十六日仏國外務省ニ於テ對墺平和條約第一回批准寄託調書調印式ヲ舉行ス右調印ニ參加シタルハ英仏伊ノ外支那希臘塞爾比暹羅「チエツコスロヴァキア」及墺國ナリ同時

六 對墺休戰條約履行ニ關スル議定書(往電第一一五一号ノ註)ニモ調印サル墺國委員ハ調印ニ際シ聯合國ガ墺國ニ与ヘタル經濟上ノ援助ニ對シ深厚ナル謝意ヲ表シ平和ノ克復ヲ慶賀シ平和條約ノ條件ハ新墺國ニ取りテハ重大ナル負担ナルモ誠意其ノ履行ニ努ムベキ旨ヲ述ベタリ 在歐米各大使ヘ転電セリ

註 七月十六日在仏國松井大使宛内田外務大臣宛第一一五一号ノ一ハ左ノ通(尚同議定書ノ「テキスト」ニ付テハ條約局編纂條約彙纂第三卷第二部六四〇頁参照)

第一一五一号

大使會議第五九(七月十五日)

一、七月十六日對墺條約第一回批准寄託証書作製ニ關シ聯合國ト墺國トノ休戰條約ノ條項中不履行ノモノニ對シテハ聯合國ハ凡テノ權利ヲ留保スルノ旨ヲ認メタル議定書ヲ作ルニ決シタリ本使ハ未ダ帝國批准済ノ電報ニ接セザル旨ヲ述ベタリ

七 八月九日 在仏國松井大使ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

對墺平和條約批准寄託調書作成並休戰條約不履行ノ事項ニ關スル留保ノ議定書調印ノ件

第一二六九号 (八月十一日接受)

八月九日仏國外務省ニ於テ英仏伊白暹羅及勃牙利間ニ對墺平和條約第一回批准寄託調書ヲ作製シタリ同時ニ勃牙利ト聯合國トノ休戰條約不履行ノ事項ニ關スル留保(對墺條約批准寄託ノ際作製シタルモノト同文、往電第一一五一号参照)ノ議定書ニ調印サレタリ 在歐米各大使ヘ転電セリ

註 本件ハ八月十三日附外務省告示第一二五号ヲ以テ官報ニ掲載セラレタリ

八 八月二十八日 在仏國松井大使ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

舊帝國ノ領土繼承諸國間ニ行政事務處理ヲ目的トスル條約調印ノ件

第一三六五号 (八月二十九日接受)

舊帝國ノ領土ヲ繼承シ又ハ旧墺國ノ崩潰ニ依リ勃興セル一 同盟及聯合國ノ独逸勅各國トノ平和條約批准關係一件 七

諸國間ニ政治經濟ニ關係アル各種ノ行政事務ヲ處理スルコトヲ目的トスル一條約ハ對墺政治行政委員會ニ於テ客年八月末迄ニ大休條約案ノ討究ヲ了シタル処當時米國ノ調印拒否羅馬尼ノ參加留保等ノ為行惱トナリタルガ今回最初ノ案ヲ變更シ大國ノ參加ヲ見ズ單ニ直接關係國間ノミノ相互協定トナスコトトナシ全文ヲ若干變更シテ八月十日對土條約ト同時ニ「セーヴル」ニ於テ伊太利、波蘭、「チエツコ、スロヴァキア」間ニ調印ヲ了セリ羅馬尼、塞爾比ノ兩國ハ未調印ナルモ調印ニ關スル「プロトコール」ニ依リ(不明)調印ノ上參加シ得ルコトナリ居レリ 該條約案「テキスト」郵報ス

九 十月二十一日 外務省告示

對墺國平和條約等批准済ノ旨仏國政府ヘ通報ノ件

附記 枢密院審査委員提出ノ對墺平和條約等御批准ノ件 外一件審査報告

◎外務省告示第二十六号(十月二十一日官報掲載)

帝國政府ハ同盟及聯合國ト墺地利國トノ平和條約、主タル

一 同盟及聯合國ノ独逸勃各国トノ平和条約批准關係一件 九

同盟及聯合國ト「チェッコ、スロヴァキア」國トノ条約、主タル同盟及聯合國ト「セルブ、クロアイト、スロヴェニア」國トノ条約及主タル同盟及聯合國ト羅馬尼亞國トノ条約ニ付各其ノ末文第三項ノ規定ニ從ヒ大正九年十月十三日帝國批准済ノ旨在弘石井大使ヲシテ仏國政府ニ通報セシメタル処同大使ヨリ翌十月十四日右通報ヲ了シタル旨電報アリタリ

大正九年十月二十一日

外務大臣 伯爵内田 康哉

(附記)

枢密院審査委員提出ノ対奥平和条約等御批准ノ件外一件審査報告

今回御諮詢ノ対奥平和条約等御批准ノ件外一件ニ付本官等審査委員ノ命ヲ拝シ客月十六日以来数次会同シテ慎重攷究シ特ニ小委員ヲ設ケテ査定ノ緻密ヲ期シ其ノ間屢々当局大臣及吏僚ノ弁明ヲ聴キ茲ニ稍ク本案ノ審査ヲ結了スルコトヲ得タリ

這次本院ノ詢議ニ付セラレタル平和条約關係ノ案件ハ(一)同盟及聯合國ト奥地利國トノ平和条約並附屬ノ議定書、宣言

本条約ニ添屬セルモノニ議定書、宣言書及特別宣言書アリ

(一)議定書ハ対奥平和条約中或ル条項ノ履行条件ヲ明確ナラシムル為協定セラレタル所ニ係リ本条約ト一体ヲ成シ之ト同等ノ拘束力ヲ有スルモノニシテ本条約ト同日同所ニ於テ本条約ノ全署名者之ニ署名シタリ

(二)宣言書ハ奥地利國ヲシテ同国海軍ノ撃沈シ又ハ損害ヲ加ヘタル船舶ニ關スル一切ノ參考資料ヲ同盟及聯合國ニ提供スルノ義務ヲ負ハシムルコトヲ定メタルモノニシテ是レ亦本条約ト同日同所ニ於テ本条約ノ全署名者ノ署名ヲ了シタルモノナリ

(三)特別宣言書ハ英、米、仏、伊ノ四國ノ請求アルトキハ奥地利國ニ於テ洪牙利國力同盟及聯合國ノ提示スル平和条件ヲ正式ニ承諾スル迄奥洪兩國間ノ物品ノ輸出入及通過ヲ禁止スルコトヲ要スル旨ヲ定メタルモノニシテ本条約ト同日同所ニ於テ主タル同盟及聯合國並奥地利國ノ全權委員之ニ署名シタリ

第二 「チェッコ、スロヴァキア」國ニ關スル条約

第三 「セルブ、クロアイト、スロヴェニア」國ニ關スル

一 同盟及聯合國ノ独逸勃各国トノ平和条約批准關係一件 九

六

書及特別宣言書(二)主タル同盟及聯合國ト「チェッコ、スロヴァキア」國トノ条約(三)同「セルブ、クロアイト、スロヴェニア」國トノ条約(四)同羅馬尼亞國トノ条約(五)伊太利國ノ賠償勘定ニ關スル同盟及聯合國間ノ協定並其ノ修正宣言書(六)旧奥地利洪牙利君主國ノ諸地方ノ解放費贖出ニ關スル同盟及聯合國間ノ協定並其ノ修正宣言書(七)「セルブ、クロアイト、スロヴェニア」國ノ加入宣言書(八)羅馬尼亞國ノ加入宣言書ヲ包含ス以下逐次此等各件ノ成立ヲ略説セムトス

第一 対奥平和条約

対奥平和条約ハ今日奥地利國ト洪牙利國トカ名実共ニ分離セルノ事態ニ照シ専ラ奥地利國ト同盟及聯合國トノ間ニ世界戦争終局ノ平和条件トシテ約定シタル所ニ係リ同盟及聯合國ノ十七國及英領五殖民地並奥地利國ノ全權委員商議ノ結果昨年九月十日仏國「サン、ジェルマン、アン、レーイ」ニ於テ「セルブ、クロアイト、スロヴェニア」國及羅馬尼亞國ヲ除クノ外全当事國ノ全權委員ノ署名ヲ了シタルモノナリ本条約ハ前文及末文ノ外編ヲ別ツコト十四、条ヲ立ツルコト三百八十一、別ニ附屬書十九、附屬表五及附屬地圖一ヲ添フ

条約

第四 羅馬尼亞國ニ關スル条約

此ノ三条約ハ大体ノ趣旨ヲ同シクシ此等各国ニ於テ種族、言語又ハ宗教ヲ異ニスル少数民族ヲ保護シ且諸外國トノ通商ニ關スル通過ノ自由ト制度ノ衡平トヲ保障スル為主タル同盟及聯合國ト此等各国トノ間ニ締結セラレタルモノニシテ其ノ基ク所孰レモ対独又ハ対奥平和条約ニ在リ即チ「チェッコ、スロヴァキア」國ニ關スル条約ニ付テハ対独条約第八十六条及対奥条約第五十七条、「セルブ、クロアイト、スロヴェニア」國ニ關スル条約ニ付テハ対奥条約第五十一条、羅馬尼亞國ニ關スル条約ニ付テハ同第六十条ノ規定カ各其ノ根拠タルモノナリ而シテ「チェッコ、スロヴァキア」國ニ關スル条約ハ千九百十九年九月十日「サン、ジェルマン、アン、レーイ」ニ於テ、羅馬尼亞國ニ關スル条約ハ同年十二月九日巴里ニ於テ孰レモ各締約國全權委員ノ署名アリタルモ「セルブ、クロアイト、スロヴェニア」國ニ關スル条約ハ同年九月十日「サン、ジェルマン、アン、レーイ」ニ於テ主タル同盟及聯合國全權委員ノミ署名シ「セルブ、クロアイト

ト、スロヴェーヌ」国全權委員ノ署名セサリシモノナリ

第五 伊太利国ノ賠償勘定ニ関スル協定

第六 旧奥匈国ノ諸地方ノ解放費釐出ニ関スル協定

此ノ二協定ハ同一ノ趣旨ニシテ旧奥匈国領土ノ一部ヲ割取シタル伊太利、波蘭、「チエツコ、スロヴァキア」、羅馬尼亞及「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」ノ諸国ヲシテ奥地利国トノ賠償勘定ニ於テ同国ノ為各一定ノ金額ヲ釐出セシムルコトヲ同盟及聯合國間ニ協定シタルモノナリ而シテ前者ハ専ラ伊太利国ニ関シ後者ハ波蘭外三国ニ関スルモノニシテ孰レモ對奥平和条約ト同日同所ニ於テ「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」国及羅馬尼亞国ヲ除クノ外各同盟及聯合國ノ全權委員ノ署名ヲ經タリ

然ルニ右二協定ニ規定セル釐出金支払方法ニ付關係国ニ異議ヲ生シ此ノ点ニ関スル修正宣言書各一通ヲ作成シ千九百十九年十二月八日巴里ニ於テ波蘭、「チエツコ、スロヴァキア」及羅馬尼亞ノ三国ヲ除クノ外各同盟及聯合國ノ全權委員之ニ署名シタリ

第七 「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」国ノ加入宣

ハ該国ハ締盟国ノ列ヲ脱スルコトナキヲ得ルモノナリ

以上諸案件ノ要目ハ別冊外務省ノ作成ニ係ル「對奥平和条約解説概要」ニ開陳スル所ノ如シ

對奥平和条約ハ大体ニ於テ範ヲ對独平和条約ニ採リ其ノ形式及實質共ニ相近似セル所多キモ兩者ノ間又固ヨリ若干ノ軒輊ナキニアラス彼此異同ノ比較ハ載セテ別冊外務省ノ作成ニ係ル「對独對奥平和条約及附屬議定書等ノ異同摘要」ニ在リ今該二平和条約ヲ通觀シテ其ノ差異ノ稍々著シキモノヲ挙クレハ大凡左ノ如シ

(一) 当事国ノ数ニ於テ對奥条約ハ對独条約ニ比シ十国ヲ減ス是レ奥地利国ト開戦又ハ国交断絶ニ至ラサリシ諸国カ参加セサリシニ由ル

(二) 独逸二国ハ固ヨリ其ノ情勢ヲ異ニシ隣接近邇ノ諸国亦同一ナラサルカ故ニ歐洲政治条項、歐羅巴以外ニ於ケル奥地利国ノ利益、陸軍海軍及航空条項等ニ於テ其ノ特殊ノ事由ニ基ク差異アルハ当然ノ事ニ屬ス

(三) 賠償ニ関シ對奥条約ニハ賠償委員會分科会ノ規定アルモ對独条約ニハ其ノ規定ナシ是レ主トシテ旧奥匈国領土ノ一部ヲ割取シタル諸国ニ關係スル問題ヲ審議セシムル為

第八 羅馬尼亞国ノ加入宣言書

「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」国ハ對奥平和条約第五十一条ノ規定及之ニ基キタル自国關係ノ特別条約ヲ以テ自国ノ内政ニ干渉セラルルモノト為シ又伊太利国ノ賠償勘定ニ関スル協定及旧奥匈国ノ諸地方ノ解放費釐出ニ関スル協定中自己ニ不利ナル条項アリト為シ初メ此等取極ニ署名スルコトヲ肯諾セサリシカ後之ニ参加スルコトニ決意シ昨年十二月五日巴里ニ於テ单独ノ宣言書ヲ作成シテ以上諸取極ニ加盟スル旨ヲ声明シタリ若シ關係列国之ヲ承認スルニ於テハ該国ハ締盟国ノ列ヲ脱スルコトナキヲ得ルモノナリ

羅馬尼亞国モ亦前述同様ノ理由ニ依リ始メ對奥平和条約並賠償勘定及解放費釐出ニ関スル協定ニ署名セサリシカ昨年十二月九日ニ至リ巴里ニ於テ单独ノ宣言書ヲ作成シテ右諸取極ニ加盟スル旨ヲ声明シタリ尚對勃爾牙利平和条約ハ昨年十一月二十七日關係諸国間ニ調印セラレタルニ羅馬尼亞国ハ始メ之ニ署名セス右宣言書中ニ之ニ加入スル旨ヲ併セ声明セリ若シ關係列国之ヲ承認スルニ於テ

設置スルモノナルカ如シ

四制裁、賠償等ノ条項ニ於テ對奥条約ハ對独条約ニ比シ稍々其ノ条件ヲ寛和セルモノアリ是レ奥匈国ノ領土削奪セラレテ資力劇減シタルノ事實アリ且戦争ノ開始及慘行ニ對スル責任独逸ニ比シテ幾分輕少ナリト為スヘキ事情アルニ由ルナラム

尚對独条約ト對奥条約ト間々其ノ原文同シクシテ其ノ邦訳異ナルモノアリ是レ對独条約ハ全編英仏両文ヲ以テ認メ兩者同等ノ効力アルモノト為シタルニ由リ主トシテ英文ニ拠リ之ヲ邦訳シタルモ對奥条約ハ英、仏、伊ノ三文ヲ以テ認メ疑アルトキハ仏文ニ從フヘキモノト為シタルニ因リ主トシテ仏文ニ拠リ之ヲ邦訳シタルノ結果ナリ尤モ國際聯盟規約及労働ノ二編ハ對奥条約ニ於テモ亦英仏両文ニ同等ノ効力ヲ認メタルカ故ニ其ノ邦訳ハ彼此相異ナル所ナシ

上掲諸案件中對奥平和条約、「チエツコ、スロヴァキア」国ニ関スル条約、「セルブ、クロアート、スロヴェーヌ」国ニ関スル条約及羅馬尼亞国ニ関スル条約ハ批准ヲ要スルモノニシテ對奥平和条約ハ既ニ本年七月十六日巴里ニ於テ主タル同盟及聯合國中英吉利、仏蘭西、伊太利ノ三国、支

那、希臘、「セルブ、クロアート、スロヴェニア」、暹羅、「チェッコ、スロヴァキア」竝に地利ノ諸國ノ間ニ批准書寄託ノ第一回調書作成セラレタルニ依リ同日以降実施ノ効力ヲ生シ其ノ他ノ三條約中「セルブ」國ニ關スル條約及「チェッコ」國ニ關スル條約モ既ニ英、仏、伊ノ三國及當該二國ノ批准ヲ經テ對獨平和條約ト同時ニ實施ノ効力ヲ生シタリ帝國ニ於テハ今ヤ稍ク諸般ノ準備成ルヲ告ケ茲ニ對獨平和條約（附屬議定書ヲ含ム）外三條約ヲ批准シテ其ノ批准書ヲ巴里ニ寄託スルノ手續ヲ履行セムトス而シテ對獨平和條約附屬ノ宣言書及特別宣言書、伊太利國ノ賠償勘定ニ關スル協定及其ノ修正宣言書竝に舊獨逸國ノ諸地方ノ解放費贖出ニ關スル協定及其ノ修正宣言書ハ其ノ性質關係諸國間ノ取極ニ屬スルモ批准ヲ要スル旨ノ規定ナク唯各國政府ノ之ヲ承認スルヲ以テ足ル更ニ「セルブ、クロアート、スロヴェニア」國及羅馬尼亞國ノ加入宣言書ニ至リテハ當該國單獨ノ表意ニ係リ固ヨリ關係諸國間ノ取極ニ非ス畢竟右二國ヲシテ該宣言書ニ掲ケタル諸取極ニ加盟セシムル機宜ノ処置ニシテ列國政府ハ斯ノ如キ便法ヲ承認スルヲ以テ足ル帝國ハ茲ニ列國ノ例ニ倣ヒ前記四條約ノ批准書ト共ニ右協定及宣

言書ノ謄本ヲ仏國政府ニ送付セムトスルモノナリ  
次ニ帝國ト獨逸國トノ間ニ設置スル混合仲裁裁判所ニ關スル件ハ對獨平和條約第二百五十六條ノ規定ニ依リ設置スヘキ日獨逸混合仲裁裁判所ニ關スル規程ニシテ彙ニ本院ノ御諮詢ヲ經緊急勅令トシテ公布セラレタル本年勅令第八十七號帝國ト獨逸國トノ間ニ設置スル混合仲裁裁判所ニ關スル件ト其ノ内容及形式ヲ同シクス即チ本案ハ右本年勅令第八十七號ノ規定ヲ其ノ儘準用セムトスルモノニシテ其ノ要旨ハ（一）日獨逸混合仲裁裁判所カ帝國ノ司法裁判所ニ於テ受理シ得ヘキ性質ノ事件ニ付為シタル判定ハ帝國ノ司法裁判所ノ確定判決ト同一ノ効力ヲ有セシメ此ノ判定ニ依リ強制執行ニ付テハ外國裁判所ノ判決ニ依リ強制執行ニ關スル民事訴訟法ノ規定ヲ準用スルモノト為シ（二）帝國ノ司法裁判所ハ右混合仲裁裁判所ノ囑託ニ因リ書類ノ送達及証調ニ付勅令ノ定ムル所ニ從ヒ法律上ノ輔助ヲ与フヘキモノト為シ（三）右混合仲裁裁判所ニ對スル事件ノ提起ハ時効ノ中断ニ關シテハ之ヲ裁判上ノ請求ト看做スノ諸點ニ在リ而シテ此等ノ規定ハ其ノ實質憲法上ノ立法事項ニ屬スルモノ本件ノ混合仲裁裁判所ハ對獨平和條約實施ノ日ヨリ三月ノ期間内ニ設

置スヘキモノニシテ其ノ開始ニ伴ヒ本案ノ特別規定ヲ設クルコト關係當事者ノ權利行使ノ障礙ヲ除キ仲裁裁判ノ運用ヲ全カラシメ惹テ條約所定ノ帝國ノ責務ヲ遂行スル為ニ已ムヲ得サルノ必要アルカ故ニ茲ニ帝國憲法第八條第一項ニ依ル緊急勅令ノ形式ヲ以テ本案ヲ發布セムトスルモノナリ

按スルニ對獨平和條約及之ニ伴フ諸案件ハ大体ノ結構ヲ對獨平和條約ト同シクシ其ノ規定ノ一半ハ既ニ對獨條約ニ於テ認容セラレタル所ナルコト、該條約ニ對スル帝國利害關係ノ輕重ハ固ヨリ對獨條約ニ於ケルト同日ニ談スヘカラサルモノナルコト等ニ考ヘ更ニ列國協調ノ旨意ニ照シ該條約（附屬議定書ヲ含ム）ハ之ヲ批准セラルルコト蓋シ已ムヲ得サルノ措置ナリト言フヘク其ノ他ノ條約、協定、宣言書モ亦併セテ之ヲ批准、承認セラルルコト畢竟基本條約ノ批准ニ牽聯シテ避クヘカラサルノ処置ナリトス但願ルニ彙ニ本院ニ於テ對獨平和條約ノ御諮詢ヲ蒙リタル際該條約ノ各項及其ノ成立ニ至ル迄ノ經過ニ付巨細審査ヲ遂ケテ其ノ意見ノ存スル所ヲ發表シ失當ノ廉ヲ示シテ當局ノ注意ヲ喚起シタリ其ノ事項ハ當該審査報告ニ収録スル所ノ如シ右本院意見ノ諸點中對獨平和條約ニ於テ同様ノ條項ヲ掲ケ又ハ同様ノ經過ア

ル事項ニ關スルモノハ今日重ネテ本官等遺憾ノ念ヲ禁スルコト能ハサル所ナリトス其ノ他對獨平和條約ニ關シ特ニ本官等ノ所見ヲ述ヘテ當局ノ考慮ヲ求メムトスルモノ數點アリ

（一）賠償委員會分科會ハ規定上広汎ナル權限ヲ有スルニ拘ラス主タル同盟及聯合國中獨リ帝國ノミ其ノ構成ニ關与セサルハ帝國カ五大國ノ一ニ列スルノ地歩ニ照シテ固ヨリ不當ノ事タルヲ免レス又「セルブ、クロアート、スロヴェニア」、羅馬尼亞ノ二國カ條約、協定ニ署名スルコトナク別ニ單獨ノ宣言書ヲ發シテ之ニ加入スルハ事明カニ異例ニ屬シ帝國ノ關スル限り未タ嘗テ其ノ先蹤ヲ知ラスト言フ此ノ類ノ不當異例ヲ捉ヘテ本條約ノ成立ヲ拒ムカ如キハ固ヨリ允當ノ措置ニ非スト雖特ニ掲ケテ當局ノ注意ヲ惹クコト又然ルヘキ所ナリト認ム

（二）對獨平和條約附屬特別宣言書ニ權利國ヲ掲クルニ當リテ五大國中獨リ帝國ヲ逸スルノ不當アルハ又本官等ノ遺憾トスル所ナリ而シテ同宣言書ハ對洪牙利平和條約ノ締結ヲ促進スルノ目的ニ出ツルモノナル処該條約ハ既ニ本年六月四日「ヴェルサイユ」ニ於テ關係諸國代表者ノ間ニ

調印セラレ其ノ成立ヲ見タルカ故ニ從テ前記宣言書ハ全ク不用ニ帰シタルモノト爲ササルヘカラス加之聞ク所ニ依レハ英國ハ此ノ見地ニ基キ該宣言書ヲ除キテ自余ノ諸取極ヲ仏國政府ニ送付スルノ手續ヲ執リタリト言フ仍テ帝國ニ於テモ該宣言書ノ趣旨ハ敢テ否トセサルモ其ノ内容ニ於テ帝國ヲ除外セルノ失当ナルニ考ヘ且右ノ理由及先例ニ從ヒテ之ヲ仏國政府ニ送付セサルノ舉ニ出ツルコト妥当ナリト認ム此ノ点ニ付テハ内閣ニ於テモ何等異議ナキ旨ノ言明ヲ得タリ

(三)對獨逸平和條約ノ首編ニ掲クル國際聯盟規約ハ對獨逸平和條約ニ於ケルモノト其ノ條項全然同一ニシテ其ノ間何等ノ連絡規定ヲ設クルコトナシ而シテ對獨逸條約ノ署名國ハ對獨逸條約ノ署名國ト同シカラス其ノ數ニ於テ十國少キコト前ニ記述シタル所ノ如シ仍テ考フルニ專ラ條文ノ形式ニ拘リテ解スレハ對獨逸條約ニ依ル國際聯盟ト對獨逸條約ニ依ル國際聯盟ト二者並立スルノ義ト爲スヘキニ似タリ然レトモ國際平和ヲ保持シ列國協調ヲ促進スル爲多數諸國ヲ羅致シテ一團ヲ形成スルヲ以テ本來ノ眼目ト爲ス國際聯盟ハ唯一アルノミニシテ二アルヘカラサルコト蓋シ言ヲ

双ツナカラ用意ノ周密ヲ欠キタルノ譏ヲ免レス本官等ノ深く遺憾ニ堪ヘサル所ナリト然レトモ既往ノ失当ハ姑ク措キ將來ノ對策ヲ如何ニスヘキカ純理ニ依リテ斷スレハ國際聯盟ハ對獨逸條約ニ依ルモノ唯一アルノミナルカ故ニ支那國ハ對獨逸條約ヲ批准スルノ外國國際聯盟ニ加入スルノ途ナシト爲スヘキモ此ノ論理ヲ貫キテ該國カ聯盟ノ一員タルコトヲ拒否スルハ蓋シ國際政局ノ事實ノ許ササル所ナラム若シ事實上支那國カ國際聯盟ニ加入セルコトヲ否認スル能ハストセハ帝國ニ於テハ山東問題其ノ他對獨逸條約所定ノ事項ニ付之ヲ以テ列國同意ノ既定主義ナリト爲シ支那國ノ容喙爭訟ヲ許ササルノ確乎タル態度ヲ持シテ動カサルコト緊切ノ要諦ナリト信ス是レ特ニ本官等ノ所懷ヲ披瀝シテ當局ノ適切ナル攷究ヲ熱望スル所ナリ更ニ對獨逸平和條約等ニ關スル今後ノ処置ニ付テハ當局ニ於テ續密攷究スヘキモノアリ此ノ点ニ付テモ亦對獨逸平和條約ニ關シ本院意見ノ存スル所ニ照シテ機宜ノ措置ヲ謬ラサラムコトヲ切望ス

帝國ト獨逸地利國トノ間ニ設置スル混合仲裁裁判所ニ關スル件ハ曩ニ制定セラレタル日独混合同仲裁裁判所ニ關スル勅

俟タル所ナリ又對獨逸條約ニ依ラス對獨逸條約ニ依リテ唯一ノ國際聯盟ニ加入スルノ途ヲ設ケタリトセハ是レ對獨逸條約ヲ以テ對獨逸條約ノ國際聯盟規約ヲ修正シタルモノト言ハサルヘカラスルモ兩條約ノ署名國同一ナラサルニ考ヘ斯ノ如キ見解ハ固ヨリ許スヘカラスル所ニ屬ス加之國際聯盟規約ハ對獨逸條約ニ掲ケタル上更ニ之ヲ對獨逸條約ニ収メタルハ帝國ニ取リテハ實ニ容易ナラサル困難ノ種因ナリトス即チ支那國ハ對獨逸條約ノ條項中主トシテ帝國ニ對スル關係ニ於テ自國ニ不利ナルモノアリトノ理由ノ下ニ該條約ニ署名セス從テ對獨逸條約ニ依リテハ國際聯盟ニ加入スルコトナキモ對獨逸條約ニ署名シ且早ク之ヲ批准シ本條約ニ依リテ均シク國際聯盟ノ一員タルモノト自称シ進テ山東問題ノ如キ對獨逸條約所定ノ事項ヲ捉ヘ自國ノ承認セサル所ナリト爲シテ之カ解決ヲ國際聯盟ノ裁定ニ求ムルノ意圖ヲ藏スト伝フ若シ他日真ニ此ノ如キ情勢ニ至ルコトアラムカ帝國ノ体面ヲ損シ其ノ利益ヲ害スルコト決シテ鮮少ナラサルナリ對獨逸條約ノ締結ニ當リ帝國全權委員カ徒ニ列國代表者ノ顰ニ倣ヒテ漫然本條約ニ國際聯盟規約ヲ掲クルニ委シタルハ法理ノ審明ト利害ノ衡量ト

令ト其ノ内容及形式相同シキカ故ニ又該勅令ト同一ノ理拠ニ由リ之ヲ是認スルコト当然ナリ

之ヲ要スルニ審査委員會ニ於テハ對獨逸平和條約等御批准ノ件外一件ハ原案ノ儘可決セラレ然ルヘキ旨前記希望事項ト共ニ全会一致ヲ以テ議決シタリ  
右審査ノ結果ヲ報告ス

大正九年十月二日

審査委員長

樞密院副議長 子爵清浦奎吾

審査委員

樞密顧問官 子爵伊東巳代治

樞密顧問官 子爵金子堅太郎

樞密顧問官 子爵末松 謙澄

樞密顧問官 男爵穗積 陳重

樞密顧問官 安廣伴 一郎

樞密顧問官 一木喜徳郎

樞密顧問官 富井 政章

樞密顧問官 有松 英義

樞密院議長 公爵山縣有朋殿

一 同盟及聯合國ノ独逸勃各国トノ平和条約批准關係一件(附)  
別冊ヲ省略ス

(欄外註記)

「大正九年十月六日樞密院本會議ニ於テ清浦副議長ヨリ本報告ノアリタル後直ニ全会一致ニテ可決(藤井)」

## 附 米國ノ対独平和条約批准拒否問題

一〇 一月九日 在米國幣原大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

対独平和条約批准問題ハ次期大統領及上院議員改選迄進展ヲ見ザルベキ旨ノ觀測報告ノ件

附記一 大正八年十二月三十日幣原大使發内田外務大臣

宛電報第九一三号

米國ノ対独平和条約批准問題ノ動向ニ関シ、メルベル、ストーン氏珍田大使ニ内話ノ件

二 大正八年十二月三十日幣原大使發内田外務大臣

宛電報第九一六号

米國上院ニ於ケル対独平和条約批准ニ関スル留

一〇

一四

保案等ニ付グレー英國大使ノ談話報告ノ件

第一一号

(一月十一日接受)

当國上院ニ於ケル平和条約批准問題ノ形勢ニ付テハ昨年十一月往電第八一九号<sup>(註)</sup>ヲ以テ大体ノ觀測ヲ稟報シ置キタル処爾來「ロツジ」氏一派ハ依然自党ノ威信ヲ示サンガ為メ少クトモ表面上ハ極メテ強硬ノ態度ヲ持シ当國人一般ニ米國本位主義(「アメリカニズム」)ヲ喜ブノ傾向アルニ乗ジテ巧ニ自派ノ主張ヲ擁護シ來レルガ民主党側ニ於テハ大統領病床ニアリテ久シク何等本問題ニ對スル意見ヲ發表セザリシ為「ヒッチコック」氏ハ上院ニ於ケル同党首領トシテ一時困難ナル立場ニ陥リタルモノノ如ク只條約ノ骨子ヲ破壊スルノ嫌アル「ロツジ」氏ノ留保案ニ對シテハ斷然強硬ニ反對スルノ態度ニ出ヅルト共ニ到底無留保批准ノ望ナキヲ看テ絶エズ妥協ノ余地ヲ存スルニ努メタリ昨年十一月留保附批准案並無留保批准案共ニ否定セラレタリト雖一般ニ之ヲ以テ條約最後ノ運命ヲ決シタルモノト認メズ殊ニ實業界ニ於テハ速ニ條約ノ批准ヲ必要トシ上院議員ニ對シテ益々強圧ヲ加ヘタルヤニテ「クリスマス」及新年休暇中ニ際シ有力ナル兩黨議員間ニ屢々私的會合アリ妥協ノ傾向漸ク

顯著ナルニ至リタルガ妥協ノ尤モ困難ナル点ハ結局第一、

留保案ニ對スル三大國ノ同意ヲ必要トスルノ条件、第二、

國際聯盟規約第十條、第三、英國自治領ノ國際聯盟會議ニ

於ケル投票數、第四、山東條項ナルガ如シ本使ガ消息通ノ

觀測ナリトテ伝聞スル所ニ依レバ「ロツジ」氏モ内実右第

一及第四ノ点ニ付テハ幾分讓歩ノ意嚮ヲ有シタルモ第二及

第三点ニ至リテハ妥協セズ殊ニ英國自治領投票數問題ニ関

シテハ反對意外ニ強ク英國ハ米國ト英國自治領トノ間ニ於

ケル紛争發生ノ場合ニハ其他ノ自治領及英本國ノ為各別投

票權ヲ主張スルノ意思ヲ有セザルコト「ロイド、ジョー

ジ」氏ノ演說ニ徴シ略々明瞭ナリトスルモ米國ト英國以外

ノ諸國トノ間ニ紛争發生ノ場合ニハ英國ハ英本國及自治領

各別ノ投票權ヲ利用シテ米國ノ主張ニ反對ヲ試ムルコトア

ル可ク從而右「ロイド、ジョー」氏ノ言明ノミニテハ滿

足ナラズトノ議論アリ又國際聯盟規約第十條ハ米國憲法ニ

違反シ米國ノ主權ヲ無視スルモノナリトノ說頗ル有力ナリ

ト謂フ右消息通ノ觀測ナルモノガ果シテ肯綮ヲ得タルヤ否

ヤハ暫ク措キ大体ニ於テ妥協ノ氣運漸ク熟スルニ至リタル

ノ狀アルニ當リ一月八日「ジャクソン」記念日ニ於テ發表

一 同盟及聯合國ノ独逸勃各国トノ平和条約批准關係一件(附)

セラレタル大統領ノ書翰ハ右氣運ニ一頓挫ヲ來シタルコト疑ヲ容レズ尤モ民主党議員中ニハ今尚條約ノ解釈的趣旨ニ限り留保ヲ以テ批准ヲ了スルノ望ヲ斷タザル者アリ又共和黨議員中ニモ極力批准ノ促進ニ努力スル温和派アリテ今後本問題ノ發展ハ尚遽ニ予期ス可カラズト雖民主党議員ノ大部分ニシテ大統領ノ意見ニ從ヒ結束スル以上ハ結局次期大統領選舉及上院議員改選ノ結果確定スル迄本問題ノ審議ス可キ望少ナキコトト察セラル英、仏、伊へ電報セリ

註 大正八年十一月十九日幣原大使發第八一九号ハ同年日本外交

文書第三冊上卷七六九頁第六二一文書

(附記一)

大正八年十二月三十日在米國幣原大使發内田外務大臣宛電報第

九一三号

米國ノ対独平和条約批准問題ノ動向ニ関シ、メルベル、ストー

ン氏珍田大使ニ内話ノ件

第九一三号

(一月三日接受)

在英大使發本使宛電報

第二八五号(極秘)

此頃巴里ヨリ來レル「メルベル、ストーン」氏ニ面會シタルニ其談話中參考ニ資スベキ点ヲ指摘スレバ左ノ如シ

一〇

一五